

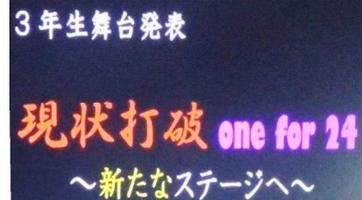
「さあ、みんな、考えよう」

中学生の学びや思いに学ぶ

11月2日(土)、柘植中学校文化祭

3年人権劇「現状打破 one for 24 ~新たなステージへ~」より

3年生の人権劇、舞台設定は中学校卒業から10年後の25歳の同窓会でした。壮絶な沖縄戦のことを学び、命の重みを改めて考え、思いを伝えあった沖縄修学旅行。自分の生き方を考えた天王寺中学校夜間学級やしらさぎ識字学級の皆さんとの出会い。これらの中3のときの出来事や出会いは、その後の未来にどのような影響を与えているかを劇にしていました。一部を実際のセリフ等でお伝えします。中学生の劇から何を感じますか？



沖縄修学旅行

私たちが沖縄へ行った最大の目的は、平和学習です。事前学習として、沖縄戦の歴史、沖縄にあるガマのことやひめゆり学徒隊について調べてきました。2年生のとき、柘植中出身の三重テレビの小川秀幸さんとの出会いから、「命どう宝」「一日一日を大切に生きる」ということの大切さを学びました。修学旅行では、現地に行ったからこそ一人ひとりの命の重みについて改めて考えました。修学旅行2日目が終わりに、ホテルでクラスミーティングを行い、語り合いました。テーマは「平和学習の感想」と「これまでの自分」の2つでした。

ぼくは糸数ガマの中が印象に残ってる。全員ライトを消すと、横にいる友だちも、目の前にはずの自分の手も見えないくらい真っ暗やった。出口に進んでいくと光が見えて、ぼくはすごく安心した。当時ガマで過ごしていた人の気持ちを考えた。その後、摩文仁の丘で歌った「島唄」は、いつも以上に気持ちを込めて歌ったよ。

私は大西正子さんからの聞き取りで「不発弾がなくなる限り限り戦争は終わらない」という話から、沖縄の現実を感じた。それは私の中で、沖縄戦はもう終わって沖縄の人たちは平和に暮らしていると思っていたから。大西さんの話を聞いて、永遠に傷が残り、今でも苦しめられている人がいるんだと思った。

私は沖縄戦の図が印象に残ってる。その中に集団自決の絵があったやん。説明を聞いて「米軍に殺されるくらいなら自分たちの手で死になさい」と教えられていたことが分かった。その教えがなかったら助かった命もあったんじゃないかな。それに命は助かったとしても、心の傷は一生残ると思うから、改めて戦争の恐ろしさを感じたよ。

ぼくは米軍の基地問題を身近に感じた。事前にぼくの班は基地について調べていったんやけど、美術館の屋上から見た普天間飛行場が思った以上に広がった。沖縄戦は過去の話ではないっていうか…。今の問題として考えやなあかんのやと思ったで。

天王寺中学校夜間学級生、しらさぎ識字学級生との交流とこれから

3年生の9月、私たちは大阪にある天王寺中学校夜間学級を訪れました。夜間学級とは、戦争が終わっても経済的な理由で学校に通えなかった人や、働くために日本にやってきた外国の人たちが勉強しています。昼間の仕事とかけもちで、夜間学級へ通う大人のみなさんの姿。その姿に、私たちが生きていくうえで大事にしなければならない何かがあるはず。交流会では一人ひとり夜中生のみなさんに質問をさせていただきました。その1つ1つの質問への夜中生の言葉が劇の中のセリフにたくさん使われていました。



劇のなかに使われた天王寺中学校夜間学級生(夜中生)のことば

- 人に言われるのイヤやったら言われる前にした方がいいわ。みんな若いんだから、「先に自分から」なんて思ってる中で、成長があるはずよ！それから、できなかつたら素直に謝ることも大事にしてね。
- 人との付き合いは、心と心の付き合い。思ったことをそのままぶつけてみて。それに、人生は自分が主役！自信をもって積極的に！
- 私もね、日本に来て5年になりますけど、最初は全然言葉がわからなくて苦労しました。夜間学級に通うようになって、だんだん日本語がわかるようになってきました。今も、言っていることはわかるけど、会話するのが難しいです。
- 私も病院へ行ったり、運転免許を取ったりするときに苦労したわ。専門用語が多くて全然わからなかったの。でも、夜間学級で、授業以外にも先生やクラスメートに質問したら、言葉がわかるようになってきたのよ。
- 今はすごくいい環境で、いい時代。私たちが子どもの頃は戦争があって勉強できなかったんだから。明日の米がない、そんな時代。みんな、中3っていちばん大事な。今せんかったら、後でもっとしんどくなるから！自分の代わりはいないんやと思って、夢をちゃんと持って努力！
- なかまは宝物。私はいろいろななかまに支えられて、今こうやって学ぶことができるから。高校生になってからも同窓会をして、このつながりが切れないように。そうすれば大丈夫。
- 私は夜中に来て実感したことがあるよ。それは「学ぶことは、自信へつながる道」だということ。みなさん、未来は明るいよ。学び続ければ可能性は無限に広がるよ！

私は、高校へ行って自分の力で友だちを作っていけるか、正直不安。それは、今は何でも言える友だちがいるけど、高校でみんなバラバラになってしまうから。だけど、夜間学級の方から「自分の素を出していったら大丈夫」と言ってもらったから、笑顔で過ごしたいと思う。悩んだら、このなかまのところへ帰ってきたらいいんやと思って、頑張りたい。

自分は、しらさぎ識字学級のおばあちゃんから聞いた「死ぬまで勉強」という言葉が印象に残ってる。それを聞いて、学校の勉強もやけど、人権のこと、差別のことをずっと考えていかなあかんと思ってん。差別をなくす活動をこれからも続けたいと思ってる。

私は今、伊賀市の10中学校で行う「部落問題を考える中学生の集い」の実行委員をしています。それがきっかけで、柘植で大切にしている人権学習を、他の人にも当たり前と思ってほしいと考えるようになった。だから、集い本番では、本音を伝えて聞き合える空間を作りたい。



ぼくは、夜間学級の方から「自信を持ってないのは自分のからにとじこもっているからじゃない？」と言われたことが印象に残ってる。自分は先のことが心配になってしまって、ちぢこまってしまうことがあったから。今はそうじゃなくて、日ごろから笑顔や自分から声をかけることを意識しています。

自分のことを伝えられる、つながりあえるなかまの存在をこれからも大事にしていけます！